

# 付編

近代史年表

行政・軍事・教育・生活

# 年表 行政

	西暦	明治	
西暦 明治	1868	1	葦山県に編入
江戸を東京と改称	1869	2	品川県に編入
東京遷都	1870	3	品川県第十九番組に編入 (番組制実施)
兵制統一	1871	4	神奈川県に編入
廃藩置県	1872	5	戸長・副戸長・用掛設置 (庄屋・名主・年寄の名称を廃止)
土地売買の禁を解き地券交付	1873	6	神奈川県第十一区五・六番組に編入 (大区小区制実施)
徴兵令・地租改正	1874	7	神奈川県第十一大区七小区に編入 (区番組改編)
《征韓論高まる》 民選議院設立建白	1875	8	
《自由民権運動へ発展》 法治主義による	1876	9	
立憲政体樹立の詔書発布 《民間に憲法制定論争》	1877	10	
西南戦争	1878	11	西・南・北多摩三郡設置(大・小区廃止)
第一回内国勲業博覧会開催	1879	12	北多摩郡に編入(村)との行政区画復活)

征韓論争に敗れた西郷・板垣ら辞職

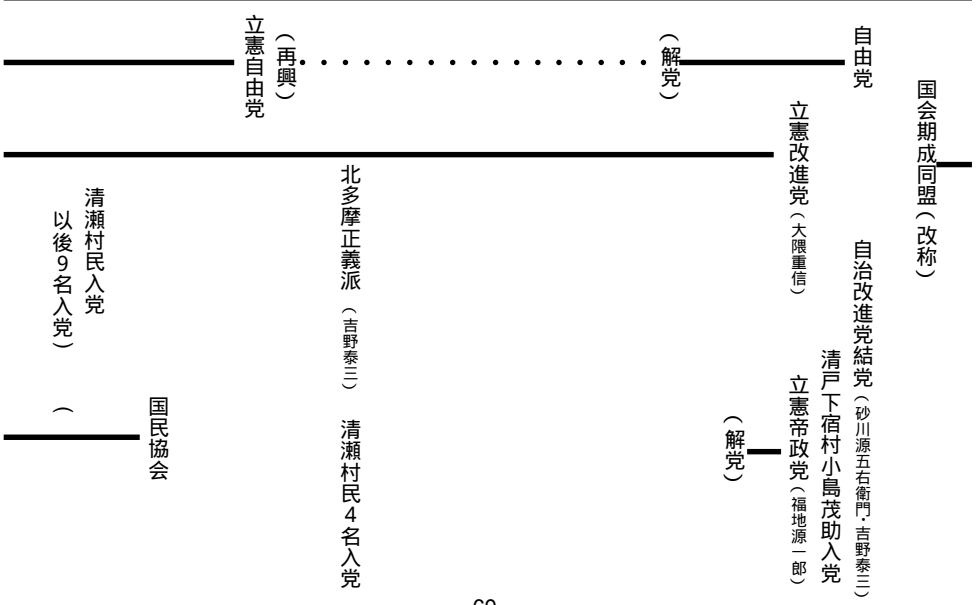
愛国公党創立(板垣退助) 板垣ら民選議院設立建白書を提出

立憲社結成(後に愛国社・自由党の中核となる)

愛国社 (以後、自由民権運動活発化)

立志社、国会開設の建白書提出

集会条例制定	1880	13	
《国会開設運動展開》			
明治23年の国会開設勅諭発布	1881	14	
学芸講談会が民衆（五百世）憲法完成	1882	15	
	1883	16	
《テフレ不況、秩父事件等	1884	17	連合戸長制実施（清瀬六ヶ村・ 南秋津村の連合戸長役場を中清戸設置）
自由党急進派の暴動事件多発	1885	18	
内閣制度を実施	1886	19	
第一次伊藤博文内閣成立	1887	20	
	1888	21	《清瀬三ヶ村、町村制に反対し団結》
市制・町村制公布	1889	22	清瀬村成立（町村分合実施）
大日本帝国憲法公布	1890	23	
第一回衆議院議員選挙	1891	24	
第一回帝國議會	1892	25	
第二回臨時衆議院議員選挙	1893	26	東京府に編入 （二多摩、東京府へ移管）
（政府が選挙干渉し対立深まる）	1894	27	
日清戦争			



日清講和条約調印  
三国干渉

1895 28

1896 29

1897 30

最初の政党内閣誕生

1898 31

1899 32

北清事変

1900 33

1901 34

大正  
昭和

若多摩郡廃止（郡制廃止法実施）

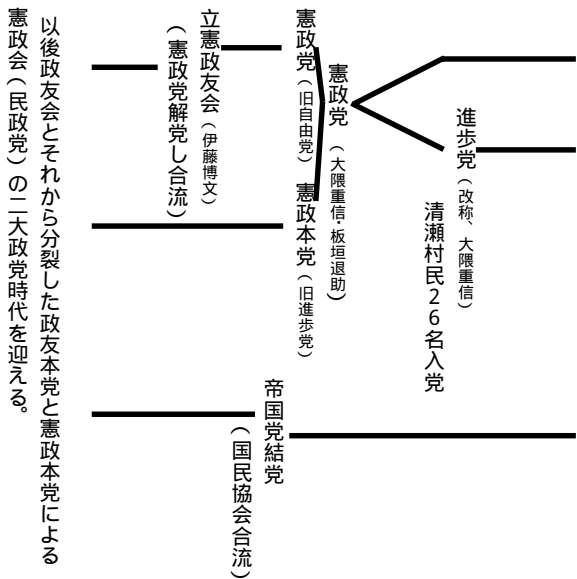
三多摩行政・地理上の

呼称としてのみ残存）

東京都に改称（都制施行）

瀧瀬町に改称（町制施行）

瀧瀬市に改称（市制施行）





# 年表 軍事

	西暦	明治
鳥羽・伏見の戦い（戊辰戦争起こる、翌年終結）	1868	1
	1869	2
兵制統一（陸軍フランス式、海軍イギリス式）	1870	3
	1871	4
徴兵の詔書がでる	1872	5
征韓論をめくり政府分裂 徴兵令を布告 第一回徴兵 《徴兵逃亡あいつべ》	1874	7
		6 1873
江華島（ソウル北東）で日朝交戦	1875	8
	1876	9 中里村で徴兵逃亡者
西南戦争（征韓論に敗れた西郷隆盛が反乱）	1877	10 徴兵検査の通知来る
大久保利通暗殺（西郷に心酔する暴徒）		11 1878
第一回徴兵令改正（免役範囲縮小）		12 1879

軍人勅諭発布（天皇への絶対服従を説く）	1880	13
壬午事変（朝鮮で反日暴動、日本武力干渉）	1881	14
第二回徴兵令改正（免役廃止）	1882	15
甲申事変（日本の援助で朝鮮にクーデター）	1883	16
《テフレの不況で、暴動多発》	1884	17
漢城条約（甲申事変で朝鮮から賠償金獲得）	1885	18
天津条約（朝鮮からの共同徴兵を結ぶ）	1886	19
博愛社を日本赤十字社に改称	1887	20
第三回徴兵令改正（国民皆兵義務強化）	1888	21
教育勅語発布	22	1889
1890	23	
大津事件（ロシア皇太子ニコライ襲撃される）	1891	24
1892	25	
1893	26	
日清戦争（朝鮮問題をめぐる日清対立）	27	1894

日清講和条約調印 三国干渉（独・仏・露、遼東半島返還を勧告）	1895	28	
	1896	29	
	1897	30	
	1898	31	
北清事変（清国皇帝、列強に宣戦布告）	1899	32	日清戦争の軍資献納の感謝状来る
	1900	33	
愛国婦人会結成	1901	34	
北清事変講和議定書調印（賠償金四億五千万両）	1902	35	
日英同盟調印（満州に居座るロシアの進出防止）	1902	35	
八甲田山死の彷徨	1903	36	
日露交渉開始（満州の権益をめくり交渉）	1903	36	
日露交渉不成立	1904	37	
日露戦争突入（南山・旅順攻撃、翌年奉天占領）	1904	37	
日露講和条約調印	1905	38	
韓国総監府を設置し外交権掌握	1906	39	日露戦争従軍者からの軍事郵便が頻繁に届く
南満州に関東都督府設置	1906	39	
《南満州鉄道株式会社設立し大陸政策推進》	1907	40	清瀬村日露戦没者二名の葬儀施行
	1907	40	
《ロシア、南下策を放棄し協調的となる》	1908	41	清瀬村在郷軍人団結成 《各地で在郷軍人団結成》
	1908	41	兵役入営者の送別会開催
伊藤博文ハルビンで暗殺	1909	42	清瀬村在郷軍人団、日本赤十字社社員募集推進



日韓条約調印（韓国併合）  
朝鮮総督府設置（天皇直屬）

1911 44

清瀨村日清・日露戦没者九名の葬儀執行  
清瀨村日清・日露戦没者招魂祭執行  
清瀨村在郷軍人団、帝国在郷軍人会清瀨分会に改称

《第一次護憲運動展開 憲政擁護・打倒桂内閣》

1912 1

大正

日本赤十字社社員に所沢飛行場での観兵式拝観招待状来る

1913 2

第一次世界大戦勃発（ドイツに宣戦布告）

1914 3

染料のインヂコ（ドイツ藍買い占められ紺屋大打撃）

《大戦好景気、明治末からの慢性不況が一転》

1915 4

武蔵野鉄道開通（現、西武池袋線）

大隈重信首相暗殺未遂

5

1916

寺内正毅内閣成立

6

《軍備拡張政策によるインフレ進行》

1917 6

シベリア出兵宣言 《米騒動展開》

1918 7

第一次世界大戦終結

1919 8

《普選運動展開》

1920 9

清瀨村で寺内内閣弾劾の政談演説会開催  
スペイン風邪流行し清瀨村でも死者多数  
清瀨村政府からの恩賜金で白米を購入し、百四十一戸に廉売  
清瀨村に電灯がともる

1921 10

1922 11

関東大震災

1923 12

東村山方面から朝鮮人が攻めて来るとの流言飛び交う

加藤高明内閣成立（護憲三派連合内閣）

13

19 瀨瀨駅開設

普通選挙法成立(25歳以上男子すべてに選挙権)	1925	14	箱根土地株式会社が駅南側一帯の土地を買収しはじめ
	1926	昭和 1	
《震災手形の不良化仕付けで金融恐慌起こる》	1927	2	紺屋・機屋など手形を止められ苦しむ
	1928	3	
《ニューヨークの株価大暴落から世界恐慌起こる》	1929	4	
帝都復興完成式典開催		5	1930
満州事变(満州国を独立させる)	1931	6	東京府立清瀬病院開院
《政党内閣打倒高まり陸軍将校の反乱多発》			
日満議定書調印(満州国の独立を承認)	1932	7	不景気で農作物安く農家苦しむ
《政党内閣崩壊し軍部の政治的発言力増大》			農村救済事業として道路整備行われる
国際連盟脱退(日本軍の満州撤退勧告を拒否)	1933	8	この頃、青年団の運動会盛ん
	1934	9	紺屋・機屋、この頃までになくなる
	1935	10	東北地方大凶作、奥州っ子と呼ばれる子供が数多く奉公に来る
二・二六事件(陸軍将校ら高橋是清等殺害)	1936	11	農作物が値上がりし農家潤う
日中戦争(盧溝橋事件から中国と全面戦争へ)	1937	12	出征兵士を兵隊送りと称して清瀬駅まで見送る
国家総動員法公布(戦時経済体制確立)		13	1938中戦争の南京陥落を祝う清瀬一周旗行列挙行
国民徴用令公布(一般国民を軍需産業に動員)	1939	14	戦死者の村葬を行う

第二次世界大戦勃発（英・仏対独宣戦布告）	1939	15	食糧増産のため桑畑なくなる
日独伊三国同盟調印（大東亜共栄圏の確立をめざし南方進出）	1940		
大政翼賛会発足（戦争遂行のために国民動員）	1941	16	関東特別団員として招集される者現れる 薩摩芋の供出がはじまり大根生産激減
米・英・中・阿蘭対日経済封鎖強化	1941		
真珠湾奇襲（米・英に宣戦布告）	1942	17	清瀬村翼賛壮年団結成 秘密動員として徴兵される者多出
大東亜会議開催（戦争完遂の共同宣言発表）	1943	18	
学徒兵入隊（学徒出陣）	1944	19	清瀬村に青山国民学校の生徒学童疎開 出征兵士の楽隊による見送り盛んとなる
東京初空襲			
米軍原子爆弾投下、ソ連宣戦布告		20	清瀬楨臣B29が来襲し爆撃、死者多数
終戦（ポツダム宣言受諾）			

# 年表 教育

江戸を東京と改称

西暦 明治  
1868 1

各府県に小学校設置を命ずる

1869

3

1870

文部省設置

1871

徴兵の詔書を発布

学制・小学教則を定める（就学奨励、教科書自由発行）

《学校建設地元負担反対の一揆起こる》

徴兵令を布告

神奈川県小学校設立を各大小区に通知

1874

小学教則改正

1875

8つの清明学舎と挺立学舎合併

1876

9

第一回内国勸業博覧会開催

1877

10

《学制に対する不満高まる》

1878

11

1879

12 教育令公布（学制等廃止、地方の自主性にゆだねる）

《就学率低下、教育令を放任主義的とする批判高まる》

集会条例制定（教員、生徒の政治

活動禁止）

1880

13 教育令改正（学校の設置・就学義務強化、統制強化）

《活動禁止》

1880

清明学舎（下清戸）

清明挺立合併学舎（下清戸）

清明小学校（下清戸）

（柳瀬小学校 東村山市）  
野塩村学童通学

軍人勅諭発布

1881

14 小学校教則綱領制定（修身教育重視）

教科書採用の自由採択制廃止、届け出制とする

15 小学修身書編纂方大意公布（欧米の道徳教育排除）

宮内省『幼学綱要』刊行（修身教育が天皇と密に結合）

16 教科書を文部省の認可制とする（届け出制廃止）

《検定制度の機運高まる、認可制では時間を要する》

1883

17

内閣制度実施

1884

18 1885

1886

19 小学校令公布（尋常4年、高等4年、尋常を義務教育化）

1887

20 教科用図書検定規則制定（昭和18年まで頻繁に改定）

1888

21 私立明教小学校、清戸下宿に設立

大日本帝国憲法発布

1889

1890

22 小学校令改正（教育目的明確化、国家統制強化）

1891

23 教育勅語発布（儒教思想による、忠君愛国教育を徹底）

1892

24 清瀬村の学校で勅語奉読式挙行。天皇御眞影・教育勅語を学校奉安殿に納めることを命令

1893

25 教科用図書検定規則改定（検定強化）

1894

26 祝日・大祭日に用いる歌詞・楽譜を定める（君が代など）

1895

28 1895

清明小学校分校（中里）

中里村学童通学

私立明教小学校（清戸下宿）

清戸下宿村学童通学

清瀬小学校（中里）

化成小学校第二分  
教場（東村山市）

1896	29 小学校修身教科書の国費編纂を貴族院で可決		
1897	30 小学読本の国費編纂を貴族院で可決		
1898	31 清瀬村、昇進小学校に学校統合、野塩に第一分教場設置	昇進尋常小学校（中里）	昇進小学校第一分教場（野塩） 野塩村の学童通学
1899	32 小学校修身教科書の国定を衆議院で可決		
1900	33 小学校令を改定公布（教科書の国定実施示唆）		
1901	34 昇進小学校に高等科併設、昇進尋常高等小学校に改称	昇進尋常高等小学校 （改称）	
1902	35 教科書疑獄事件起る（教科書出版社との贈賄事件） 《疑獄事件を契機に、国定教科書制度への転換論高まる》		
1903	36 小学校令改正（国定教科書制度成立） 清戸下宿に第一分教場設置	昇進第一分教場（清戸下宿） 低学年のみ、四学年から本校へ	
1904	37 小学校国定教科書使用開始（修身・読本・日本歴史・地理、翌年から算術・図画、44年から理科） 38 1905		
	39 清瀬村在郷軍人団結成		
1907	40 小学校令改正（義務教育6年に延長、高等を2年とする）		
1908	41		
1909	42		
1910	43 村立実業補習学校を昇進高等小学校敷地に併設 （清瀬村在郷軍人団が改称）	実業補習学校併設	

1911	44			
		大正		
1912		昇進尋常小学校第一・二分教場を廃止し、本校に併合		分校廃止、本校へ統合
1913	2			
		1914		
		第一次世界大戦勃発		
		《不況一転大戦好景気》		
1915		1915 武蔵野鉄道開通（現、西武池袋線）		
1916	5			
1917	6			
		1918		
		第一次世界大戦終結		
		《米騒動展開》		
1919		1919 清瀬村に電灯がともる		
1920	9			
1921	10			
1922	11			
		1923		
		1923 清瀬青年訓練所が昇進尋常小学校に併設		清瀬青年訓練所併設
		1924		
		1924 村立実業補習学校が昇進農業公民学校に改称		昇進農業公民学校（改称）
		1925		
		1925 清瀬駅開設		
		昭和		

	1926	1	
《金融恐慌》	1927	2	
	1928	3	
《世界恐慌》	1929	4	
	1930	5	
満州事変	1931	6	
《拳国一致内閣発足、 軍部の政治的発言力増大》	1932	7	
	1933	8	
	1934	9	
	1935	10	昇進農業公民学校が清瀨青年学校に改称
二・二六事件		11	1936
日中戦争	1937	12	
国家総動員法公布		13	1938
国民徴用令公布（重需産業動員）	1939	14	青年学校の男子義務制を実施し、軍国教育重視
第二次世界大戦勃発		15	1940
大政翼賛会発足			
			清瀨青年学校 (改称)
			廃止



1941 真珠湾奇襲  
清瀬村翼賛壮年団結成

大東亜会議開催  
学徒兵入隊（学徒出陣）  
東京初空襲

1944 原子爆弾投下  
終戦（ポツダム宣言受諾）

1946

16 昇進尋常高等小学校が清瀬国民学校に改称

942

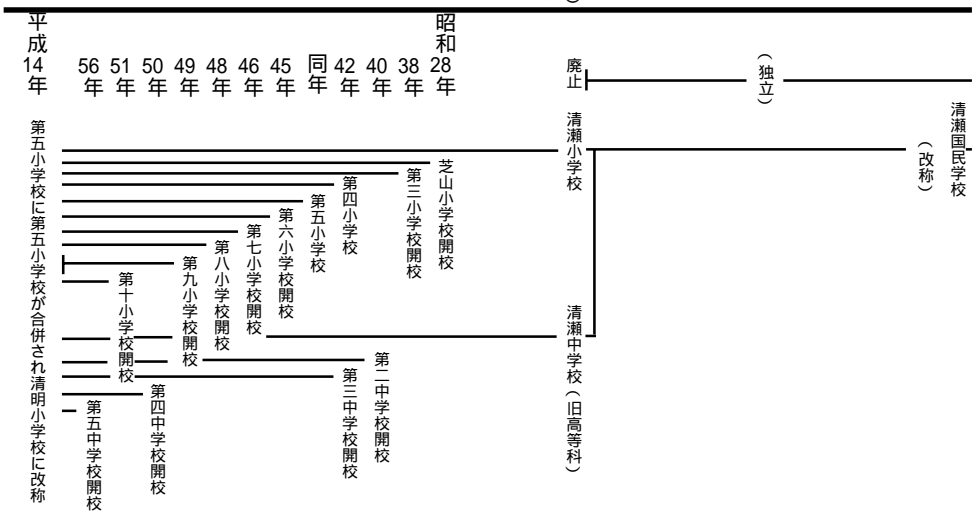
18 1943

19 清瀬青年学校が独立、国民学校教員兼務を解く  
青山国民学校の生徒、清瀬村に学童疎開

20 清瀬村にB29が来襲し爆撃、死者多数

21

22 教育基本法・学校教育法公布（六・三・三・四制実施）  
清瀬国民学校が清瀬小学校に、同高等科が清瀬  
中学校となる。清瀬青年学校廃止



# 年表 生活

## 西暦 明治

開成所でミシン伝習

西洋洗濯店開業(東京神田)

人力車発明、東京府下で開業。写真技術広まる

風月堂パン販売開始 牛鍋店開業増加(東京)

牛乳業開業(東京芝)

トンビ(二重回し)流行

郵便制度施行(前島密発案)

氷屋流行(東京)

太陽曆実施

牛・豚肉店流行

長襟巻き流行(東京)

マツチの製造開始(東京三田)

散発流行

第一回内国勸業博覧会開催

木村パン店開業(東京銀座)

インク創製丸善インクとして販売開始

チヨコレートの販売を広告(東京両国風月堂米津)

チーズ製造開始(北海道)

1 日枝神社別当慈覚寺、神仏分離令により廃寺となる

この頃、村山餅の製造はじまり、桑・茶栽培も普及

2 この頃、世相の推移から貧窮者多出し下総の開拓地への移住者現れる

3 1870

4

5 1872

6 太陽曆の実施で混乱、年中行事は農作業との関係から旧曆維持

徴兵逃れのため養子・世帯主になる次男三男あいつぎ土地の価格高騰

7 前年に税が金銭納となり、農閑期の商売・機織り稼ぎ盛んとなる

この頃、東久留米の人に指導を受け、中里に万作伝わる

8

9

10 第一回内国勸業博覧会に出品し清戸下宿高橋友右衛門(製粉)・中清戸

高橋喜平治(豌豆)、内務卿大久保利通から褒状授与される

11 1878

12 1879

アスパラガスはじめて栽培(神奈川)	1880	13	
牛乳の配達はじまる	1881	14	
洋傘製造開始	1882	15	
ラムネの飲用はじまる。足袋にコハゼがつく	1883	16	
上野動物園開園	1884	17	
バリカンの使用はじまる	1885	18	東光院焼失、以後無住の寺となる
上野駅開業	1886	19	
ネクタイ製造開始	1887	20	
海水浴はじまる	1888	21	
洋服大流行し古着屋大繁盛	1888	22	
学童の筆記練習用に石盤が行きわたる	1888	22	
東京初のコーヒー店開業(東京日本橋)	1888	22	
酒悦福神漬発売	1888	22	
ボクシング・レスリング興行(東京木挽町)	1888	22	
トマトの食用はじまる	1888	22	
日本人向ビール製造麒麟ビール命名	1888	22	
アイスクリーム・アイスキャンデー発売(風月堂米津)	1888	22	
ビスケット製造(風月堂)	1888	22	日枝神社の水天宮建つ
たこ焼流行	1890	23	
花王石鹸発売	1891	24	
妖怪研究会結成され迷信打破運動を展開	1891	24	
丸善万年筆発売	1892	25	
活動写真興業(東京神田)	1894	26	この頃88歳命寺にあった48畳敷の建物を建て替える
山高帽流行	1894	27	
軍歌流行	1894	27	

大形の丸髻・島田流行 ローラー・スケート場あらわれる（東京神田）	1895	28	
「少年世界」「太陽」（博文館）創刊 朝顔栽培流行（東京）		29	中清戸に紺屋あきる
赤帽営業開始	1897	30	
浅草パノラマ館開館	1898	31	この頃、清瀬に革靴を履く人現れる
日本初の蓄音機専門店「三光堂」開業 ビヤホール開店（東京新橋） ヤマハピアノ製造開始 「鉄道唱歌」流行	1900	32	昇進小学校開校記念日に雛子（清戸下宿）、万作（中里）、剣舞（下清戸）を披露 1899
「箱根八里」「荒城の月」流行	1902	34	大山参りに荻窪まで歩き中央線に乗って行く（下清戸） 1901
台湾バナナはじめて入荷 冷蔵庫出品される（第5回国勤業博覧会）	1903	35	
子供の遊びに「戦争」「こ」流行 千人針の風習はじまる	1904	36	
夏目漱石「吾輩は猫である」発表	1905	37	
	1906	38	上清戸の出征兵の家族、青山師範学校へ最後の面会に行く この頃、日露戦争の戦況を伝える号外が連日のように来る
	1907	39	
	1907	40	
森永キャラメル（十粒入・十銭）発売 救世軍、慈善鍋（社会鍋）開始	1908	41	
味の素発売	1909	42	この頃、養蚕の時期とお盆が重なるため、村中協議して9月盆とする

活動写真館大流行				
柳田国男「遠野物語」刊行				
白瀬中尉、南極探検に出発				
蓄音機・レコード普及	1911	43	リヤ丸の普及しはじめ	
空気タイヤの人力車登場		44	この頃、西川勘三郎が清瀬ではじめて自転車を購入して乗る	
知恵の輪流行、油絵具製造開始		大正	この頃、薩摩芋が盛んで、馬場下町(新宿区)・椎名町・中野へ出荷	
トンボ鉛筆発売	1913	1	所沢飛行場の開設式典に飛行機を見に行く多数	1912
大正琴流行、東京駅開業	1914	2	上清戸の人、所沢飛行場へ帰還予定のブレリオ飛行機墜落を目撃	
三越呉服店開店(日本初のエスカレーター設置)	1915	3		
ブルーマ・かめのこだわし普及		4	武蔵野鉄道開通(現、西武池袋線)	
チャップリン人気起こる		5	1916	
尾上松之助(目玉の松ちゃん)映画人気	1917	6	昇進尋常小学校の校歌できてる。	
サンドイッチ・マン現れる		7	上清戸の政談演説会に高木正年ら来訪。スペイン風邪流行し死者多数	
森永製菓「ミルクチョココレート」発売	1918	8	上清戸の人、神田の青年会館へ大隈重信の講演会を聞きに行く	
玄米パン発売	1919	8	清瀬村に電灯がとまる(夜のみ)	
メンソレータム発売	1920	9	昇進尋常小学校、秋津駅から武蔵野鉄道に乗り天覧山へ遠足に行く	
		9	この頃、府立農事試験場で斎藤米蔵が清瀬人で初めてトマトを食べる	
グリコ発売。クレパス誕生		10	この頃、臼枝神社の祭礼にろくろつ首・軽業の見世物小屋出る	
「赤とんぼ」「赤い靴」「船頭小唄」流行		11	この頃、中清戸の人所沢織物協同組合の伊予拵視察に参加	
アイシャドウ流行。ボーイスカウトはじまる	1922	11	この頃、農作業に石灰窒素普及	
アイシンシュタイン来日し相対性理論ブーム		12	ト(22) (赤茄子) 普及しだす	
水谷八重子ら震災慰安劇公演		13	清瀬駅開設	
あん蜜・焼鳥・釜飯出現。「この際だから」流行語	1924	13		
キャッチフレーズ「ガルピスは初恋の味」				

「キング」創刊講談社50銭、「家の光」創刊ラジオ本放送開始。村山貯水池完成	1925
「モガ」「モボ」流行語、ハンドバック流行しなそば・ワントン登場	1926
「波浮の港」レコード大ヒット（日本ビクター）	1927
ラッパスボン・オカマ帽子流行	1928
テレビジョン実験成功し観衆驚嘆	1929
マニキュア・ロングスカート流行	1930
チンドン屋出現	1931
「酒は涙か溜息か」影をしいて」流行	1932
上野公園の「猿のお山」完成	1932
「サイタ サイタ サクラガサイタ」の新国定教科書使用開始	1933
宮沢賢治没（38歳）	1934
日産のダットサン量産開始、山口貯水池完成	1934
東京市、「ゴミ」の肥料再生施設完成	1935
忠犬八子公死ぬ、渋谷駅前に銅像建立	1935
アルマイト製弁当箱普及	1936
千人針・慰問袋作り盛んとなる	1937
渡辺はま子「支那の夜」流行	1938
カーキ色の国民服・モンペ着用を奨励	1939

14	この頃、ズロースと長靴普及
昭和	
1	上清戸の人々ら26人伊勢参りに行く 蚕生産衰退し野菜生産に切り替わる この頃、長命寺薬師様縁日で相撲流行る
2	農作物植上がりし月に35回も淀橋の市場へ通う人が現れる この頃まで日枝神社の観音祭り（馬祭り）に着飾った馬が集まる
3	下清戸自転車御岳山へ雨乞。休心庵改築入仏式で青年団芝居を運営 役場新築し中清戸から現在地へ移転。この頃、下清戸の青年5人自動車で大山・江戸島へ日帰り旅行
4	下清戸の人々1円の会費でトラックを借り大山参りに行く この頃から鉱石ラジオが普及しだす
5	この頃、月見用のススキを淀橋の東洋市場へ出荷する
6	この頃、人参・干し大根を作りはじめる 東京府立清瀬病院開院
7	柳瀬川へ蚩狩りに行き火の玉を見た人現れる
8	この頃、登校の集合場所でもあった日枝神社の大杉枯れる 農村救済事業で小金井街道等道路工事頻繁に行われる
9	紺屋・機屋姿を消す 東北地方大凶作で、奥州つ子と呼ばれる子供が多数奉公に来る
10	この頃まで帯解きの祝いに行う引きずり餅の行事が見られた この頃、金属製の湯たんぼ普及
11	この年、清瀬にあった自動車は乗用車1台、トラック3台 二・二六事件直後、市場帰りに荻窪の渡辺錠太郎郎を見に行く人現れる
12	
13	この頃、下清戸八ゲタク市、中清戸ベッタラ市など暮れの市なくなる
14	

ディック・ミネ「上海ブルース」流行  
 霧島昇「蘇州夜曲」、高峰三枝子「湖畔の宿」流行  
 隣り組の制度がしかれ「隣り組の歌」流行  
 「勝つてくるぞと勇ましく」流行  
 「欲しがりません勝つまでは」標語流行  
 外出時のゲートル使用強制的となる  
 乾燥ハナナ・乾燥鶏卵配給される  
 モンペに防空頭巾着用普及  
 「予科練」「同期の桜」流行  
 メチルアルコールによる死亡急増 輪タク登場  
 「リンゴの歌」流行。「億総さんげ」流行語

1940

15

食料増産のため桑畑なくなる

16 この頃、養蚕衰退し9月益が8月益に戻る

18 この頃、麦・薩摩芋の供出はじまり大根衰退

19 1942上清戸の人甘薯増産の技術を習得するため愛知県の丸山方作を尋ねる

1943

18

ラジオ普及

19 この年まで中里氷川神社の祭礼で神楽が見られた

終戦直後、中里の民家の庭で映画会開催される

20 この頃から2月に行っていた正月行事が1月となる

1945